

氏名	宮 石 智		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	博 甲 第 891 号		
学 位 授 与 の 日 付	平成 3 年 3 月 28 日		
学 位 授 与 の 要 件	医学研究科社会医学系法医学専攻 (学位規則第 5 条第 1 項該当)		
学 位 論 文 題 目	AN ENZYME IMMUNOASSAY FOR HUMAN MYOGLOBIN AND ITS APPLICATION TO FORENSIC MEDICINE (ヒトミオグロビンの酵素免疫測定法とその法医学的応用)		
論 文 審 査 委 員	教授 産賀敏彦	教授 赤木忠厚	教授 岡田 茂

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

ヒトミオグロビンのエンザイムイムノアッセイを考案した。この方法の再現性・回収率はよく、抗凝固剤などの影響も認められなかった。この方法による正常人の血中ミオグロビン濃度は 35.5 ± 23.9 ng/ml であり、尿中濃度は 2 ng/ml 以下から 373.5 ng/ml の広い範囲に分布した。生体における外傷症例では、損傷の程度に相応してミオグロビンの血中濃度が高く、血中濃度の上昇は受傷後早期から生じ、高齢者では一般に上昇は高度であった。死体試料では、心臓血と脳脊髄液のミオグロビンの濃度比は死後経過時間と負の相関を示し、ミオグロビンの血中濃度は生体の場合と同様損傷程度を表す指標として有用であると考えられた。しかしながら血中濃度は試料の採取部位による差があり、濃度の評価は慎重でなければならない。また死体血のミオグロビン濃度と CPK 活性を同時に測定すれば、法医学上の死後経過時間推定や腐敗進行度推定の一助となり得る。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はミオグロビンに関する研究であるが、ヒトミオグロビンの酵素免疫測定法を開発し、法医学的試料におけるミオグロビン測定とその意義に関して重要な知見を得た価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。